

## 生 化 学 (1)

教 授 平 賀 絃 一  
助 教 授 日 比 野 康 英  
助 手 河 合 亜 希 子  
助 手 山 崎 一 磨

### ◆ 著 作

1) 医学のための基礎分子細胞生物学 (第二版) 平賀絃一, 山本 博, 伊達寿保, 野口民雄編著. 南山堂. 東京. 1999.

### ◆ 原 著

1) Hibino Y., Hiraoka Y., Kamiuchi S., Kusashio E., and Sugano N.: Enhancement of excision repair of cisplatin-DNA adducts by cell-free extract from a cisplatin-resistant rat cell line. *Biochemical Pharmacology*, 57 : 1415-1422, 1999.

2) Nakagawa I., Hibino Y., Ohashi Y., and Sugano N.: Augmentation of cytolytic activity of mouse splenic cells by a heteroglycan-protein fraction from culture medium of *Ganoderma Lucidum* (Rei-shi) mycelia. *Biotherapy* 13 : 513-515, 1999.

3) Komae N., Hibino Y., and Sugano N.: Analysis of micronuclei induced under hyperthermic conditions in human lymphocyte culture by fluorescence *in situ* hybridization (FISH) and spectral karyotyping (SKY) methods. *YAKUGAKU ZASSHI* 119 : 763-772, 1999.

### ◆ 学会報告

1) 日比野康英, 広瀬紀子, 森田泰弘, 菅野延彦: 細胞核骨格蛋白質に結合するDNAの転写制御. 日本薬学会第119年会, 1999, 3, 徳島.

2) 日比野康英, 広瀬紀子, 森田泰弘, 平賀絃一, 菅野延彦: 正しい塩基配列から明らかになった細胞核骨格構成蛋白質 (足場蛋白質) matrin 3 の諸性質. 第72回日本生化学会大会, 1999, 10, 横浜.

3) 山崎一磨, 河合亜希子, 日比野康英, 濱田秀雄, 張 允嶺, 塚田一博, 平賀絃一: TyrとThr残基がリン酸化されたポリペプチドのCCl<sub>4</sub>肝障害における時期特異的出現. 第72回日本生化学会大会, 1999, 10, 横浜.

4) 濱田秀雄, 遠藤俊郎, 山崎一磨, 河合亜希子, 日比野康英, 平賀絃一: ラット脳の発生に伴うM

ARCKSのin vitroリン酸化活性の変化. 第72回日本生化学会大会, 1999, 10, 横浜.

5) 日比野康英: Matrin 3 と酷似した足場蛋白質 P130の構造と機能. 平成11年度国立遺伝学研究所研究会 (非B型DNAの生物学: 遺伝子の収納と発現の基本メカニズム), 1999, 10, 三島.

6) 日比野康英, 広瀬紀子, 森田泰弘, 菅野延彦, 平賀絃一: MAR/SAR DNAを介した足場蛋白質P130による転写活性化. 第22回日本分子生物学会年会, 1999, 12, 福岡.

7) 山崎一磨, 河合亜希子, 日比野康英, 塚田一博, 平賀絃一: CCl<sub>4</sub>肝障害の修復期に検出されるポリペプチド, p30, の性質. 第22回日本分子生物学会年会, 1999, 12, 福岡.

### ◆ その他

1) 平賀絃一: 生化学. 「医学生のための進路ナビー私はなぜ現在の科目を選んだかー」, 41-42, 日本医事新報社 1999.